



フジサンケイグループ

女性のための生活情報紙

リビング 東京南

2008年2月9日

1620号

無料/土曜日発行 次回発行は 2月16日です
リビングレディがお届けします

サンケイリビング新聞社

〒102-8515 東京都千代田区紀尾井町3-23

発行/サンケイリビング新聞社

“買い物でCO₂を減らす”ため エコレールマークを知ろう

国土交通省鉄道局 貨物鉄道政策室長 大野達(とおる)さん

話題人
登場



プロフィール●1992年、運輸省(現・国土交通省)入省。鉄道局をはじめ、航空局、港湾局、海上保安庁、在ロシア日本大使館などに勤務。2007年8月から現職。大のサッカー好きで自身も経験者。「最近では運動不足なので、“観戦専門”で楽しんでいます」とのこと



エコレールマーク

現在、注目されている“京都議定書”では、日本は2012年までに二酸化炭素(CO₂)の排出量を1990年より6%減らさなければならない。その対策のひとつとして、企業が商品を輸送する際に鉄道を活用することが見直されている。

「自家用トラックでの輸送に比べて排出量が約50分の1、営業用トラックと比べると約8分の1と、環境にやさしいのが“鉄道貨物輸送”です」と、分かりやすく教えてくれたのは、国土交通省鉄道局貨物鉄道政策室長の大野達さん。「今までは、一般の消費者にとって商品がどうやって運ばれてきたのかを知る手段がありませんでした。それを目に見える形で表そうと2005年に作られたのが、国土交通省と鉄道貨物協会によるエコレールマークです」

マークの認定基準は、500km以上の陸上輸送に鉄道を①30%以上利用している商品、または②

15%以上利用している企業。現在、17件の商品と企業37件が認定されている。商品は、キリンビバレッジの午後の紅茶、旭化成ライフ&リビングのサランラップ、パナソニックモバイルコミュニケーションズの携帯電話など、生活に身近なものばかりだ。

「マークは、商品や段ボール、企業のウェブサイトなどに表示されているので、みなさんが買い物をされるときを目安にしてください。しかし現状では、商品のパッケージにマークが印刷されていることが少ないので、鉄道貨物協会のホームページ(<http://www.rfa.or.jp>)をチェックしてもらうと一目で分かるようになっていきます」

少しでも多くの人に、このマークを知ってもらおうと、取材中もグッズ制作のアイデアなどを語る大野さん。これからのエコレールマークの広がりを感じた。

(東京編集部・吉野歩)